

群馬県利根郡みなかみ町議会

1 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

群馬県の最北端に位置するみなかみ町は、平成 17 年 10 月 1 日に 3 町村が合併し新設された。面積は約 781 km²と県内一位の広さで、その約 9 割は山林である。平成 29 年度の予算規模は 141 億 4000 万円で人口は合併当初から約 15%減り、平成 29 年 10 月 1 日現在で約 1 万 9500 人、高齢化率が 36%を超える過疎指定を受ける町である。

住人は、広大な自然と豊かな資源を保全、活用をしながら主に観光業や農業に携わり暮らしている。平成 29 年 6 月には、自然と共生した暮らしぶりやその広大な自然を抱えている町そのものが評価され、ユネスコエコパークに認定された。

議会では、少子高齢化、人口減少、合併特例債打ち切りを見越した財源の確保等々の課題が山積する中、人々の幸せな生活を確保する職務の遂行に日々邁進してきた。

合併当初の議員定数 46 名は、在任特例期間後には半数の 23 名、更に 4 年後の平成 22 年の改選時には 18 名へと現在の定数に議論を重ね改革してきた。一方で議員報酬については議論をする中、定数とは別の進捗をたどり平成 25 年 12 月議会で当局提案にて引き上げの提案がなされ現在に至っている。類似団体との比較から、なり手不足の解消へ、地方分権一括法施行以来の職責の重さ等が考慮されたもので、約 42%の引き上げには関係団体から視察も多くあった。報酬の引き上げは、平成 26 年 5 月より実施されたが同年 10 月には改選後の議員により、任期中の特例として約 10%の引き下げが行われている。

通年議会制は導入していないが、継続審査、調査により閉会中も活発に活動をしている。

議会基本条例や政務活動費の運用はないが、「みなかみ町まちづくり基本条例」の議会の責務を念頭に活動をしている。議会間の情報の共有はもとより民意の反映と報告を怠らないよう議員各位が行動をし、全員協議会や委員会等で議論を行っている。議場内での自由討議の定義は特にないが妨げるものもない。

活発な取組の一つに、三つの条例と一つの宣言文の制定がある。条例制定時から関わっていた「みなかみ町まちづくり基本条例」では、新町発足に際し町民、議会、町が一つとなって町づくりをする基本理念の位置づけをした。

「みなかみ町スポーツ・健康まちづくり宣言」では、企業と協働して町民の健康を推進するまちづくりに議会賛同の意を強める意味から制定をした。

「みなかみ町アウトドアスポーツ振興条例」は広大な自然環境を有する町に相応しい地域づくりを振興するため、自然環境の保全とアウトドアスポーツを安全に楽しめる環境整備を目的に制定した。

「中小企業・小規模企業振興基本条例」では、予てより研究、調査を進めており産業振興を目的に小規模事業者のみならず、中小企業者も含めた支援となる配慮をして制定した。

他に観光の町として、町外との交流促進に議会自ら取り組んでいる。平成 23 年に群馬県が手がけた台湾での「ビジット群馬キャンペーン」をきっかけに、翌年から現在まで観光、教育旅行、人事交流、PR 拠点設置、イベント参加等を積極的に進めてきた。交流先は台北市、台南市へと広がり台南市とは交流協

定を締結し訪台人は、6年間で50倍の1万人となった。平成22年に教育旅行の観点から「中学生の海外派遣について」の一般質問は事業化され、タイ王国や台湾へ中学生の海外研修が開催されている。町は他にも友好協定を締結している都市などがあるが、中でも東京都三宅村とは議会発で交流が始まった。現在、三宅村とは農産物の交流計画が進められている。

更に「地域活性化対策特別委員会」では、地域を活性化するための「みなかみ観光リゾート山岳都市構想」をまとめ最終報告を行った。現在は、「まちづくり振興特別委員会」へと発展し、人口減少をくい止める手段として政策の議論を進めており、これまでに「千葉市高原千葉村有効活用での地域雇用について」、「子育てと若者の定住促進について」を提案している。

今後は議会基本条例制定等で活躍されている先進地等に学び議会の習熟度を上げるべく町民のための町づくりに努めていく。